

## 第2次

# 恵庭市地域公共交通総合連携計画

(平成28年度～平成31年度)



平成28年12月

恵庭市



# 目 次

1. 地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的方針…	1
(1) 現状と課題…	1
(2) 基本方針…	1
2. 計画の区域…	4
3. 計画の目標…	5
4. 目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項…	6
(1) 第1次計画における事業の実施状況…	6
(2) 第2次計画における実施事業…	7
5. 計画期間…	9

## 1. 地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的方針

### (1) 現状と課題

恵庭市は、国道36号・北海道横断自動車道・北海道縦貫自動車道・JR千歳線等の陸上交通が交差し、JRを利用した場合、札幌に23分、新千歳空港に13分でアクセスが可能であり、1時間圏内には苫小牧港を擁する交通環境にある。

恵庭市の公共交通機関としては、JR千歳線が新千歳空港・札幌を結ぶ主要な幹線となっており、恵庭、島松、恵み野の3地区にはそれぞれJR駅があり、通勤・通学を中心に年間約400万人の利用がある。

恵庭市内の公共交通としては、えにわコミュニティバス（以下、エコバスと略記）がこの3地区を中心に循環する路線で運行を行っているほか、エコバス路線から離れた区域においては、乗合タクシー（以下、エコタクと略記）によって公共交通の空白地域の補完をしている。

民間バス路線については、千歳・札幌の都市間を結ぶ輸送を中心としたバス路線が北海道中央バスにより運行されている。

平成22年に策定された恵庭市地域公共交通総合連携計画の基本計画期間（平成22年度～平成24年度）内に行う事業はおおむね達成され、継続するものは現在まで継続している。しかし、策定から6年が経過し、利用者数の増加は停滞している。そこで、さらなる推進を図るべく、庁内で実施しているアンケートの結果や昨年実施したエコバス乗り降りOD調査、公共交通利用促進調査の結果に鑑み、路線とダイヤの利用促進に向けた利用者要望への対応はまだ改善の余地があることから、第2次恵庭市地域公共交通総合連携計画を策定する。

### (2) 基本方針

#### 歩いて暮らせるコンパクトシティを支える公共交通の実現

市民の利便性向上を図るため、鉄道、バス等、各交通機関の特性を生かした、効果的な連携・組合せの仕組みを構築し、集約型都市構造を支える交通体系の確立、公共交通システムの構築に努めます。

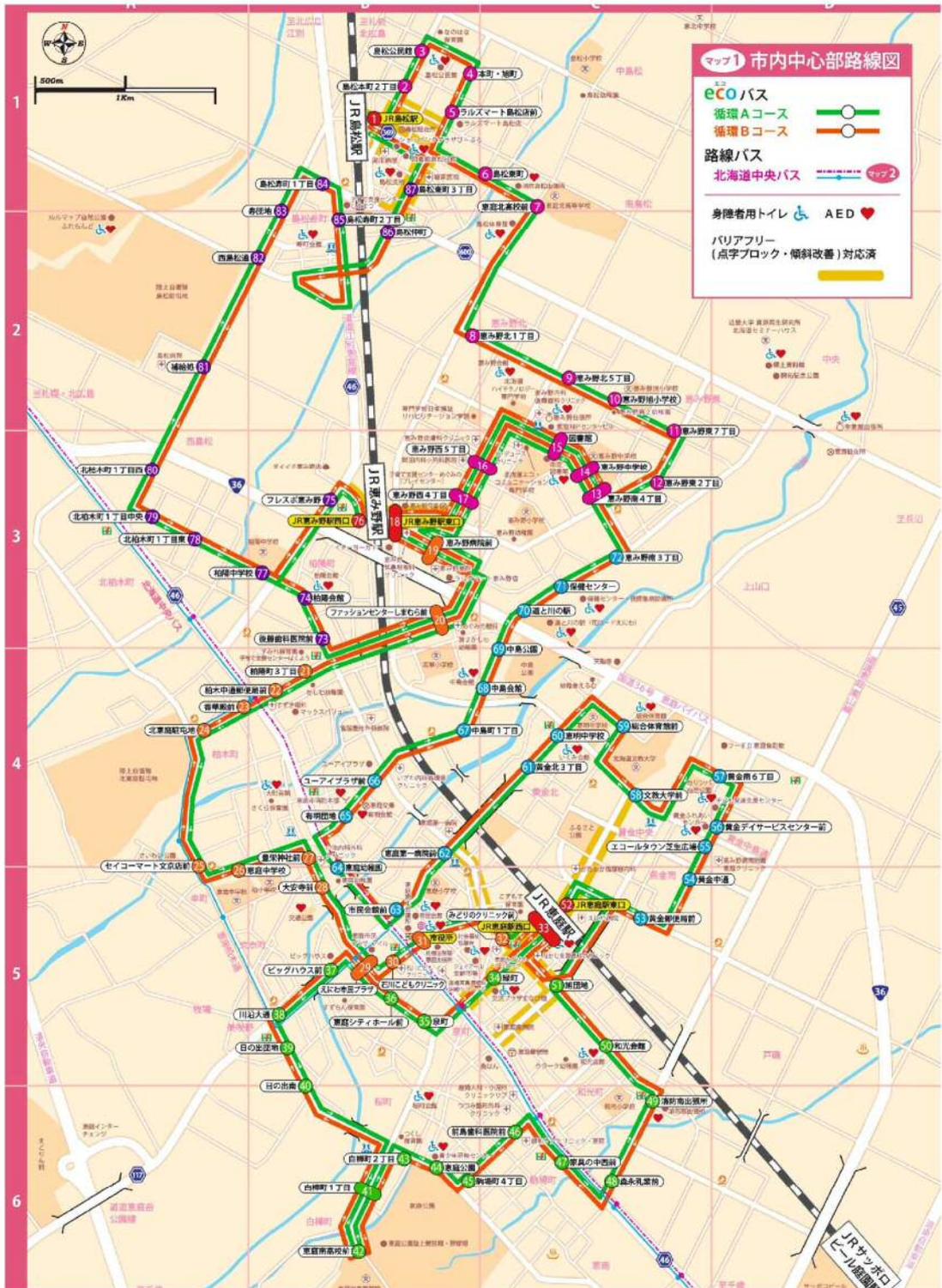
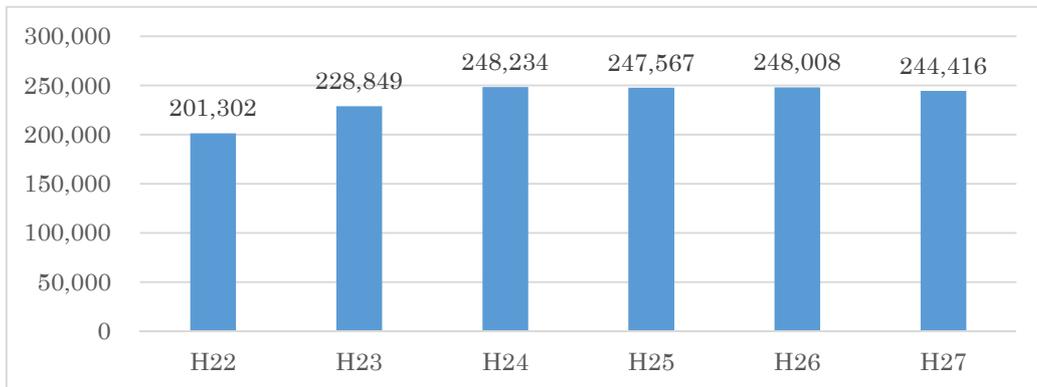
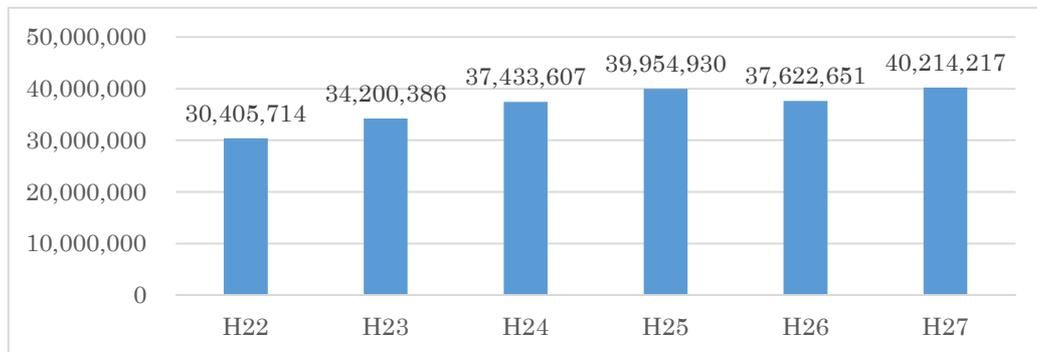


図 エコバス路線図

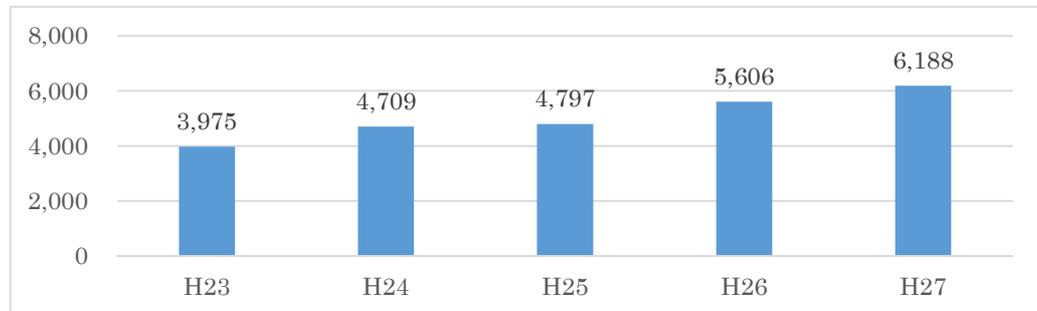
エコバスの利用者数



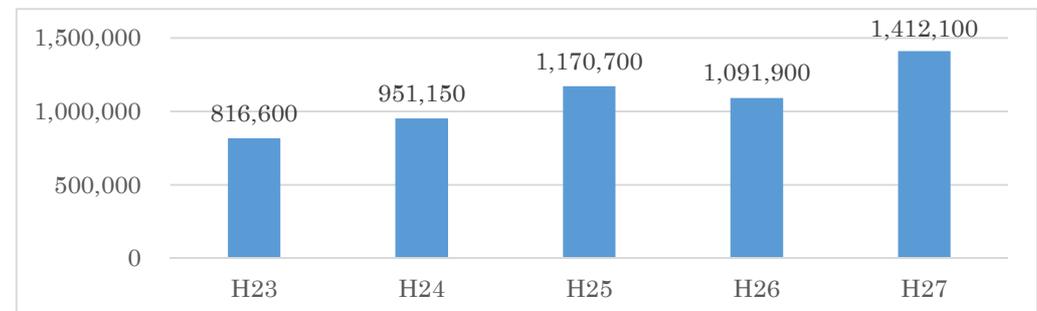
エコバスの運行収入



エコタクの利用者数



エコタクの運行収入



## 2. 計画の区域

本計画が対象とする区域は恵庭市全域とします。

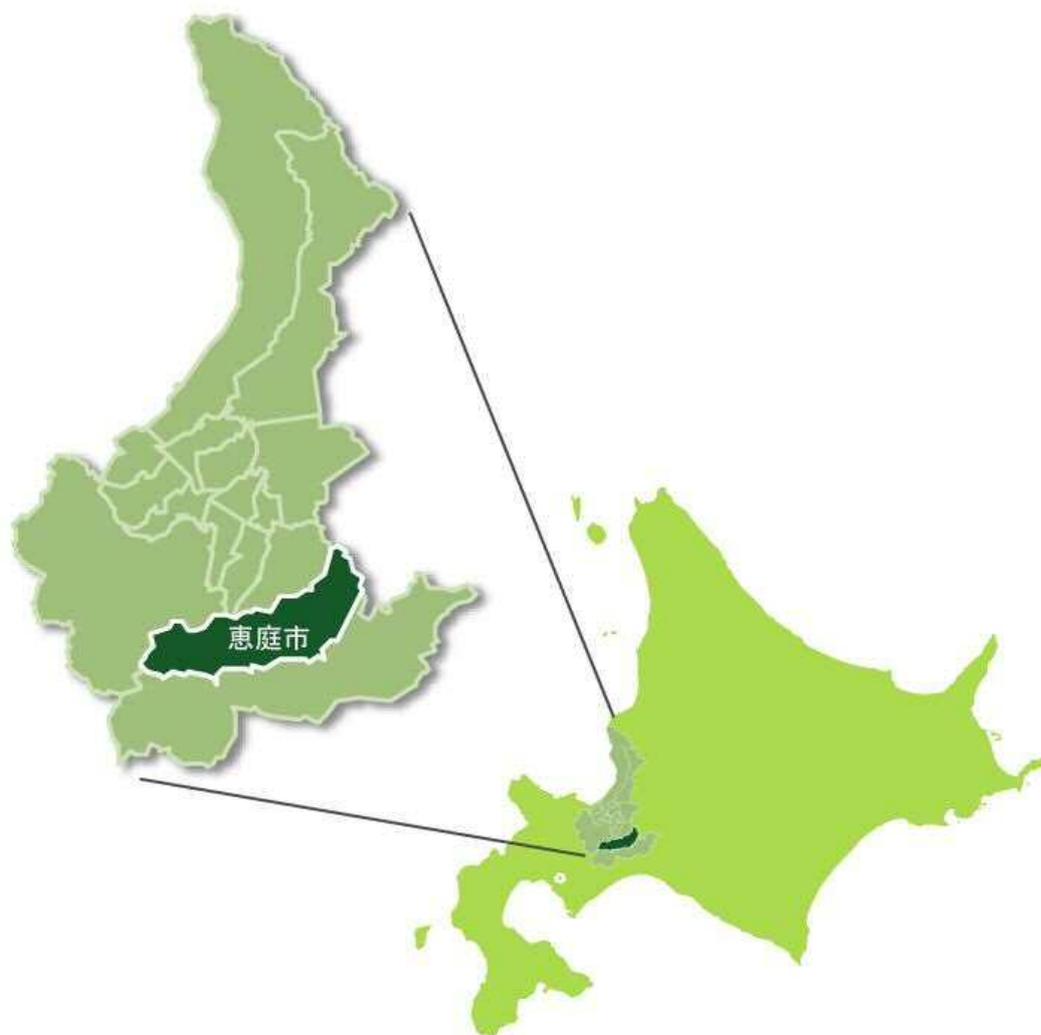


図 恵庭市の位置図

### 3. 計画の目標

恵庭市の公共交通に関する現況と課題などを踏まえ、計画の目標を次のとおり設定します。

#### <計画の目標>

##### (1) 効率的なバス運行体系の構築

循環路線を維持しつつ、路線の総延長距離、所要時間を短縮することで効率的なバスの運行体系の構築をめざします。

##### (2) わかりやすい路線とダイヤの設定

わかりやすい循環路線へ変更した路線をさらにわかりやすい円循環路線を導入し、さらなる利用促進を図るため、利用者にとっては記憶しやすく、わかりやすい毎時の時刻が固定されるパターンダイヤの導入をめざします。

##### (3) 環境とバリアフリーに配慮した車両の導入

環境とバリアフリーに配慮して、車両を購入する際は、排出ガス規制、バリアフリー適合を満たした車両の導入をめざします。

##### (4) 様々な市民を対象としたモビリティ・マネジメント

様々な市民に対し、広報などによる情報提供やアンケートを媒体としたコミュニケーション(行動プラン法)などにより、公共交通についての周知や利用の動機付けを行い、利用促進を図り、公共交通への理解を深めます。

##### (5) 交通空白地域の解消

交通空白地域に対して、乗合タクシー(エコタク)の運行を継続します。

#### 数値目標の設定

エコバスの年間利用者数を現行の約24万4400人から約36万6600人へ増加させることをめざします。

現 行	目 標
24万4400人	36万6600人

#### 算出方法

エコバス4台の利用者の平成27年度実績:約244,400人

エコバス1台平均の年間利用者数:約61,100人

エコバス(計6台)による利用者数:約366,600人 ※路線サービス向上・利用促進策実施による利用者伸びは見込まない

4. 目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

(1) 第1次計画における事業の実施状況

目標	事業	実施状況	備考
わかりやすい交通体系の構築	①えにわコミュニティバス路線再編実証運行	A	エコバス3台、JRバス1台の4路線を1路線循環型に統合し利用者増。さらなる拡大を目指す。
	②わかりやすいダイヤの導入	B	通勤・通学に配慮した時刻表に改正したが、記憶しやすくわかりやすい毎時の時刻が固定されるパターンダイヤに改定できていない。
利便性の高い公共交通の構築	③えにわコミュニティバス路線再編実証運行（再掲）	A	エコバス3台、JRバス1台の4路線を1路線循環型に統合し、利用者増。さらなる拡大を目指す。
	④わかりやすいダイヤの導入（再掲）	B	通勤・通学に配慮した時刻表に改正したが、記憶しやすくわかりやすい毎時の時刻が固定されるパターンダイヤに改定できていない。
	⑤新たな料金体系の導入	A	未導入であった定期券を導入した。
	⑥環境基準適合車両購入	A	購入したすべての車両について環境基準適合車両を購入した。
	⑦バス待合施設整備事業	A	恵庭駅西口をはじめ、バス停の環境を整備した。
交通空白地域の解消	⑧乗合タクシー実証運行	A	平成25年度から本格導入。年々利用者は増加
公共交通への理解・利用の拡充	⑨バスマップの更新	A	ルートまたはダイヤ改正ごとに更新
	⑩交通すごろくの見直し・交通すごろくの実施	A	ただし、平成24年以降は未実施
	⑪モビリティ・マネジメント等利用促進事業	A	
	⑫協賛金等バス運営に対する収入源の確保	A	企業からの広告料収入など実施

【実施状況】 A：実施 B：協議・検討中 C：未実施

(2) 第2次計画における実施事業

1) えにわコミュニティバス路線再編実証運行

【目標】 効率的なバス運行体系の構築

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総延長距離、所要時間の短縮、遅延や迂回の必要がない路線を目指すことで増便や通勤・通学におけるJR便への結節強化を図る。</li> <li>・高校生への通学時間に配慮したダイヤを導入する。</li> </ul>
実施方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証運行を平成30年度に予定。利用状況や利用者ニーズを調査分析し、路線の見直しを行い、実証を重ねる。</li> <li>・通勤・通学調査の結果を基に、通勤での利用の多いJR便の中で何本か絞って、ダイヤを設定する。</li> <li>・快速エアポートはパターンダイヤになっていることから、できるだけ前後に収まるようなダイヤを設定する。</li> <li>・高校生への通学時間に配慮したダイヤを設定する。</li> <li>・上記の取り組みを進め、平成31年度からの本格運行を目指す。</li> </ul>
着手時期	平成28年～
実施主体	恵庭市 など

2) わかりやすい路線とダイヤの導入

【目標】 わかりやすい路線とダイヤの設定

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円環路線化により、コースを「時計回り／右回り」「反時計回り／左回り」と説明できるようになるなど、利用者にとって分かりやすいものとなり、乗っていれば目的地に到着する路線とする。</li> <li>・利用促進を図るため、利用者にとっては記憶しやすくわかりやすい毎時の時刻が固定されるパターンダイヤを設定する。</li> </ul>
実施方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環路線から円循環路線へと変更する。</li> <li>・バスの増車などにより大幅にダイヤの間隔を短縮することで、各バスにおいて毎時の固定した時刻となるようなダイヤとする。</li> </ul>
着手時期	平成28年度～
実施主体	恵庭市 など

### 3) 環境基準・バリアフリー適合車両購入

【目標】 環境とバリアフリーに配慮した車両の導入

事業内容	・環境に配慮して平成 22 年の排出ガス規定を満たし、バリアフリーに適合した車両を購入する。
実施方針	・調査結果から、利用者の特性や利用者数に応じてバスを選定し購入する。
着手時期	平成 29 年度～
実施主体	恵庭市 など

### 4) モビリティ・マネジメント等利用促進事業

【目標】 様々な市民を対象としたモビリティ・マネジメント

事業内容	・バスマップを利用してアンケート調査などを実施し、バス利用評価や利用意識啓発などを行う。
実施方針	・バス利用者にアンケート調査を実施して新交通体系の理解度やバス利用評価を行う。
着手時期	平成 28 年度～
実施主体	恵庭市

### 5) 乗合タクシー（エコタク）の継続

【目標】 交通空白地域の解消

事業内容	・交通空白地域を中心に対象地域の自宅から主な公共施設、商店、病院などに送迎を行う乗合タクシーを継続する。
実施方針	・現行の乗合タクシーの事業を継続しつつ、エコバスの路線変更など交通空白地域に変更があった場合はすみやかに対応する。
着手時期	平成 28 年度～
実施主体	恵庭市



## 5. 計画期間

本計画の期間は平成28年度～平成31年度までとします。期間中は、本計画を実効あるものとするため、関係者と密接な連携を図り、PDCAサイクルにより、公共交通活性化に向けたスパイラルアップをめざします。また、期間中に地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画の策定を検討します。

表 計画期間の事業一覧

目標	事業	スケジュール			
		H28	H29	H30	H31
効率的なバス運行体系の構築	えにわコミュニティバス路線再編実証運行	検証	検証	実証運行 (本格運行)	本格運行
わかりやすい路線とダイヤの設定	わかりやすい路線とダイヤの導入	検証	検証	路線再編と併せて実施	路線再編と併せて実施
環境とバリアフリーに配慮した車両の導入	環境基準適合車両購入		購入検討	購入検討	購入検討
様々な市民を対象としたモビリティ・マネジメント	モビリティ・マネジメント等利用促進事業	継続的に展開			
交通空白地域の解消	乗合タクシー（エコタク）の継続	継続的に展開			





**生活環境部 生活安全課**